

31035 マタニティサイクル看護実習 Maternal Cycle and Nursing		3 年次～ 集中 2 単位	
担当者	坂間 伊津美／渋谷 えみ	履修可能学科	N 必
		関 連 資 格	看護（N）
サブタイトル	臨地実習を通して、周産期の母子を対象とした看護過程展開の実践を学ぶ。		
授業内容 ・ ねらい	周産期における母子とその家族の身体・心理・社会的適応過程を理解し、個別的な看護を実践するための基本的能力を養う。また、保健医療チームの一員としての看護の役割と機能について学習する。 この実習により、以下の点について習得することを目標としている。 1. 周産期の母子とその家族の適応過程について、身体・心理・社会面および日常生活面から明らかにできる。 2. 周産期の母子とその家族の看護上の診断を明らかにするとともに個別的な援助ができる。 3. 母子の健康に関わる看護職の役割と責任を自覚した行動をとり、保健医療チームメンバーとして協力しあう方法を考察できる。 4. 自己の学習過程を振り返り、今後の学習課題を明らかにできる。		
授業計画	病院の産科病棟において 1～2 組の母子を受け持ち、看護過程を展開しながら 2 週間の実習を行う。 実習内容は、褥婦・新生児の看護過程の展開、妊婦健康診査や健康教育の見学（一部実施）、カンファレンスによる実習体験の意味づけと学習の共有などである。分娩期の実習は、対象者の同意が得られた場合に行う。 （詳細は「臨地実習要項」参照）		
教科書 参考書	参）『マタニティアセスメントガイド』（真興交易医書出版部）、『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程』（医歯薬出版）、『母性看護実習プレブック看護過程の思考プロセス』（医歯薬出版）、他は適宜紹介		
評価方法	実習目標への到達状況、実習記録、実習態度等から総合的に評価する。		
事前準備学習 履修条件等	先行履修要件である「急性期看護論Ⅰ」「マタernalヘルスと看護」の内容を十分に復習して臨んでください。周産期は状況変化が早いので事前学習を怠らないことが重要です。また対象者の看護にあたる上で、まず自分の健康を整えましょう。		